

(別記)

## 2019年度紀宝町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当町は、全耕地面積に占める水田の割合が約2/3を占める。ほ場整備地区を中心に担い手への集積が進み、集積率も6割を超えている。しかし、多雨地域のため、しばしば浸水被害を受けることなどから、主食用米以外の土地利用型作物が定着せず、一部で小麦やWCS用稲による転作が取組まれているものの、農家の高齢化による農家戸数の減少等により、不作付地の拡大が進んでいる状況にある。

このため、主食用米の需要が減少する中で、新規需要米や収益性の高い他の作物の作付に転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要である。

### 2 作物ごとの取組方針等

町内の約300ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として産地交付金を有効に活用し、作物生産の維持・拡大を図る。

#### (1) 主食用米

地域内流通が主体であるが、売れる米作りを基本とし、前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、需要に応じた米の生産を行う。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中で、飼料用米を主要な転作作物の一つとして位置づける。飼料用米生産の取り組みにあたっては、地域内で実需者となる養鶏業の需要動向を勘案しつつ、需要に見合う作付けや多収品種の導入により推進を図る。

他に近隣市町の畜産農家から安全安心な国産飼料の安定供給を求められていることもあり、農業者の所得向上のために、飼料用米のわら利用を推進する

##### イ 米粉用米

ノングルテンの表示・基準についても定められたことにより新たな米粉需要が想定されることから、飼料用米と並び主要な転作作物の一つとして位置づける。生産拡大にあたっては、地域内の需要動向を勘案しつつ、需要に見合う作付けの拡大を図る。

##### エ WCS用稲

気候条件に合う主要な転作作物として、実需者である畜産業の需要動向を勘案しつつ、需要に見合う作付けの拡大や多収品種の導入推進、レンゲとの組合せによる収量向上を図る。

### (3) 麦

湿害を受ける恐れがあるため、大幅な作付け拡大は見込める状況にはないが、土地の集積を進めつつ、整備が進む麦乾燥調整施設等の利用による労働時間の縮減を図る。また、肥培管理の高度化やほ場条件の改善による生産向上の取組みを推進しながら、栽培面積の維持、拡大を図る。

### (4) 高収益作物（園芸作物等）

近隣地域や地域内消費が主体である品目を幅広く地域振興作物とし、導入推進を図る。また尾鷲熊野道の開通などもあり、紀宝町への来訪者が増加しているので、道の駅や朝市等で野菜・果樹等の振興を図る。

## 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	175.0	175.0	174.0
飼料用米	0.7	0.7	0.8
米粉用米	1.8	1.9	2.0
新市場開拓用米			
WCS用稲	7.3	7.8	8.0
加工用米			
備蓄米			
麦	2.9	2.9	3.0
大豆			
飼料作物			
そば			
なたね			
その他地域振興作物			
野菜	0.6	0.6	0.8
.			
.			
.			

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	小麦（基幹作物）	麦の生産性向上に 対する助成	栽培面積 単収	（30年度）290a （30年度）220kg/10a	（32年度）300a （32年度）296kg/10a
2	飼料用米（多収品 種）	飼料用米への多収 品種の拡大助成	栽培面積 単収	（30年度）0a （30年度）0kg/10a	（32年度）80a （32年度）467kg/10a
3	飼料用米	わら利用 （耕畜連携）	耕畜連携実施面積 わら生産量	（30年度）37a （30年度）2240kg	（32年度）50a （32年度）2520kg
4	別添助成対象作物 一覧表（基幹作物）	高収益作物助成	栽培面積	（30年度）0a	（32年度）78a
5	WCS用稲（基幹作 物）	WCS助成	栽培面積 生産量	（30年度）729a （30年度）117.6t	（32年度）780a （32年度）125.8t

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。